

統合実習

目的：看護専門職者として、自己の課題を明確にし、自己研鑽する能力とともに、看護チームの一員として、実務に即した看護実践に主体的に取り組む姿勢を養う。

- 目標：1. 臨床の場で起こる様々な状況に対し優先度の判断や明確な根拠をもつ看護実践能力を養う。
 2. 看護チームの一員としての役割を認識して行動できる。
 3. 患者の状態に応じた安全な看護を実践する能力を養う。
 4. 看護部組織におけるマネジメント、看護管理の実際について理解できる。
 5. 看護専門職業人としての自己の課題を明確にするとともに、自己研鑽する能力を養う。

実習目標1. 臨床の場で起こる様々な状況に対し優先度の判断や明確な根拠をもつ看護実践能力を養う。		
到達目標		
<ol style="list-style-type: none"> 1. 判断に必要な情報は何かを考え収集することができる 2. いくつかの選択肢を考え有効なものを選ぶことができる 3. 選択肢の中から有効なものを選び、根拠を説明することができる 4. 優先順位を判断し適切な人に助言を求めることができる 		
実習内容	方法	指導上の留意点
<ol style="list-style-type: none"> 1. 2名の患者を受持ち、患者を把握する 2. 生活援助、診療の介助を見学・体験する 3. 患者の観察を通して状況判断をして看護に活かす 	<ul style="list-style-type: none"> ・1部屋で2名の患者を選択し、その患者の情報を収集する ・生活援助や診療の介助は病棟の看護計画に沿ってそのときの状況に応じて担当の看護師とともにケアを実施する ・援助の際に必要な事や留意点等について、担当の看護師に指導を受ける ・患者観察、報告の際は優先順位を考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・学生の情報収集で不足があれば指導する ・カルテだけでなく、スタッフからも情報を得よう助言する ・実習の日程をふまえて情報収集の時間を考えるよう助言する ・担当看護師とともに患者の看護を実践する中で1日目は健康問題やその経過、現在の治療や今後の方針、日常生活援助の必要性や、患者の症状、ニーズ等を、2日目以降は状況の判断、ケアの優先順位、その場のタイムリーな報告等その場の状況に応じて行動できるように助言する
実習目標2. 看護チームの一員としての役割を認識して行動できる。		
到達目標		
<ul style="list-style-type: none"> ・看護チームのメンバーと円滑なコミュニケーションをとることができる ・受け持ち患者にかかわる情報をチームからキャッチすることができる ・受け取った情報をもとに観察、看護援助の根拠にすることができる ・自己の判断・行動をチームと共有することができる 		

実習内容	方法	指導上の留意点
2. チームメンバーとコミュニケーションをとる 3. 必要な事項をタイムリーに報告・連絡・相談する 4. 他部門と連携の実際を知る	<ul style="list-style-type: none"> ・チーム内のコミュニケーションから受け持ち患者に関する情報をキャッチする ・タイムリーに報告・連絡・相談をする ・他部門との連絡調整、情報共有の実際を見学する ・手術室、透析室、リハビリテーション部門を見学し、病棟との報告・連絡など連携の実際を学ぶ 	<ul style="list-style-type: none"> ・チームとしての看護のため意図的にコミュニケーションを図るよう助言する ・他部門との連携は、申し送りの場面や連携の場面を見学させる ・他部門との連絡調整、情報共有がチーム看護に活かされていることを助言する

実習目標 3. 患者の状態に応じた安全な看護を実践する能力を養う。

到達目標

1. リスクを予測することができる
2. リスク回避の方法を考えることができる
3. リスクを回避できる

実習内容	方法	指導上の留意点
1. 患者の生活援助技術を安全に実践する 2. 業務別看護実習を行い必要な安全の確認が出来る	<ul style="list-style-type: none"> ・生活援助の際に安全に配慮する事柄、予測されるリスクなどを確認する ・安全に配慮しながら実践しているか確認する ・薬物治療に関する業務について薬物の確認（カルテと照合、患者照合、終了後の確認）、点滴準備に関する注意点、配薬に関する注意点など業務上、看護過誤となるリスクを予測し、必要な確認や決まりを説明する ・回診の業務を見学する。（医師への報告、医師からの指示を受け、検査データなどの整理、回診介助） ・他部門への申し送りや他部門からの申し送りの場面を見学する 	<ul style="list-style-type: none"> ・技術手順、根拠に安全に配慮する点を確認する ・一般的なリスクだけでなく、患者個別のリスクを考えるよう助言する ・業務別看護実習は基本は見学とし、学習してきた事柄や、安全を確認してできる範囲で一緒に体験させる ・可能な場合、担当した患者への昼食後の与薬を事前の準備から一緒に体験させる

実習目標 4. 看護部組織におけるマネジメント、看護管理の実際について理解できる。

到達目標

1. 病院・病棟における看護マネジメントの実際を理解することが出来る
2. 病院・病棟における看護マネジメントの重要性を考察することができる

3. 看護師に求められる情報管理・安全管理・物品（薬剤）管理・コスト管理について考えることができる		
実習内容	方法	指導上の留意点
1. 病院で実際に行われている看護管理について知る	<ul style="list-style-type: none"> ・看護部長から実際に行っている管理について1時間程度の講義を受ける ・看護師長が部長室に報告に行く場面を見学する ・病棟の患者の把握（担送・護送・独歩の患者の数、重症患者の把握、同姓の患者の把握、感染症など必要な事柄）の方法や実際を見学し、安全管理について考える ・チームメンバーの把握、病室管理、業務分担、安全確認のためのチームメンバーへの声掛けなど、1日見学実習を通して、業務管理の実際を学ぶ ・病棟内の構造、物品の配置、業務、情報交換から情報管理・安全管理・物品管理・コスト管理を考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・学内の授業・資料とともに既習内容と実際を結びつけるよう指導する ・病棟管理に必要な基本的マネジメントとして考えるよう助言する ・管理の観点から看護業務を考察するよう助言する
実習目標 5. 看護専門職業人としての自己の課題を明確にするとともに、自己研鑽する能力を養う。		
到達目標		
<ol style="list-style-type: none"> 1. これまでの専門領域別実習を振り返り、看護実践能力における自己の課題を明確にすることができる 2. 専門領域別実習における自己の課題から、統合実習に期待する目標を具体的に記述することができる 3. 体験シートを活用して、日々の看護実践を自己評価することができる 4. カンファレンスにおいて自己の課題と達成状況をわかりやすくプレゼンテーションすることができる 5. 統合実習を通して明らかになった自己の課題について、今後の学習計画を立てることができる 6. 統合実習の実践を通して看護専門職者としての課題と展望を述べるることができる 		
実習内容	方法	指導上の留意点
<ol style="list-style-type: none"> 1. 自らの課題を認識し、目標設定し、実習計画を立てる 2. 体験シートを通して自己の実践から課題達成状況を評価し、さらなる課題を明確にする 3. カンファレンスで自己の課題を明確に述べる 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの経験や知識などから適切な実習目標を設定する ・体験シートを日々体験や目標から振り返り、自己の振り返りができているか、課題が明らかにできているかを確認する ・初回カンファレンスで今回の実習における学生の期待と課題を発表する。 <p><u>テーマレポート</u> 「専門職者としての自己の課題と今後の展望について」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・体験シートは学生が本日の実習目標に照らして体験を振り返り具体的に表現するように助言する ・日々の実践の中で自己の課題となった事柄や事例など明確にする ・テーマレポート作成の際には日々の体験シートやコメント、カンファレンスでの助言などさまざまな視点から得たことをまとめるように指導する

統合実習オリエンテーション

1. 実習場所：上福岡総合病院
統合実習のまとめ
2. 実習単位：2 単位（90 時間）
3. 実習期間：最終学年（3 学年）、後期実習期間 配置表に準ずる
4. 臨地実習受講のための前提条件：各領域別実習の単位修得が見込めるもの
5. 実習方法
 - 1) オリエンテーション，統合実習に向けて自己の課題の明確化（10 時間）
 - 2) 実習項目と内容
 - （1）病棟実習
 - ・看護管理実習（10 時間）：病棟看護師長、チームリーダーなどの業務を見学実習する。
 - ・複数受持ち実習（20 時間）：① 4～5 人部屋の患者 2 名を受け持ち担当看護師指導のもと看護を実施する。
② 病棟での看護計画とその実際について情報収集し援助を実施し看護経過（SOAP）を展開する。
 - ・業務別看護実習（10 時間）：診療の補助（注射担当、回診担当、処置担当、検査出し）などの業務を見学のうえ、担当看護師とともに一部体験する。
 - ・病棟実習まとめ（10 時間）：病棟実習での振り返りをし学習のまとめ、追加を行う。
 - 3) 他部門見学実習
 - （1）手術室実習（10 時間）：既習の手術室看護を活かし、術直前、術中、術直後の看護師の役割をと周手術期の看護の実際を学ぶ。
 - （2）透析室見学実習（10 時間）：透析室における看護援助を見学し、社会生活を営みながら外来治療を受けている人とその家族への継続的な看護を学ぶ。
 - （3）リハビリテーション部門の見学（10 時間）：他部門の見学を通して看護の関わりについて学ぶ。
 - 4) 統合実習のまとめ（10 時間）：統合実習を終えてテーマレポート「専門職者としての自己の課題と今後の展望」を書く。
6. 実習評価
席日数を満たし、日々の実習記録による振り返りができ、今後の自己の課題が明確にできたかを評価表に準じて評価し、60 点以上を合格とする。

I オリエンテーション, 統合実習に向けて自己の課題の明確化

日程	内容	実習課題
実習前 学内	学内実習 午前：学内オリエンテーション、実習における期待と課題を共有する 午後：これまでの看護実践を振り返り統合実習における事故の課題を明確にする	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の課題の明確化 ・事前学習確認 ・統合実習要項と予定確認

II 病棟実習（例）

複数受持ち実習、業務別看護実習、看護管理実習は、実習病棟の状況に合わせてスケジュールを計画する

日程	内容	実習課題
病棟 1日目	病棟実習（8：30～17：00） ・実習病棟のオリエンテーションを受ける ・看護管理実習（病棟看護師長・チームリーダーの業務の見学） ・病棟カンファレンスがある場合はできるだけ参加する ・15：00～複数受持ち患者の情報収集 ・16：30～カンファレンス* ¹ (翌日の行動の打ち合わせ、課題の確認)	<ul style="list-style-type: none"> ・病棟管理の実際を知る ・自分が行うべきマネジメントについて考える ・チームナーシングにおけるリーダーシップ・メンバーシップを理解する
病棟 2日目	業務別実習 8：30：病棟挨拶 業務準備見学 8：45：申し送り参加 病棟内で行われる処置や検査などの見学を行う。 16：30：カンファレンス* ¹ (翌日の行動の打ち合わせ、課題の確認)	<ul style="list-style-type: none"> ・業務別看護における安全性と安楽性の振り返り ・メンバーシップについて考える
病棟 3日目	複数受持ち実習 1日目 8：30：病棟挨拶 8：45：申し送り参加 午前のバイタルサイン測定、処置・ケアの見学 11：00：SOAP* ² 記録 SOAP 報告 昼食休憩 14：00：午後のバイタルサイン測定 患者に必要な援助の実施・見学 16：00：SOAP 記録* ² 16：30：SOAP 報告、カンファレンス* ¹ (翌日の行動の確認・課題の確認) 16：45：申し送り参加	<ul style="list-style-type: none"> ・受持ち患者（複数）の情報収集と全体像の把握および行われている看護の理解をする ・複数の患者の日々の看護ケアを計画し、優先順位を考えて実践する ・複数の患者に実施した看護ケアを評価し、考察する（SOAP）

病棟 4日目	複数受持ち実習 2日目 1日目同様 16:45: 申し送り参加 指導のもと実際に申し送りを する場合もある (担当患者の申し送り終了後実習終了)	<ul style="list-style-type: none"> ・受持ち患者 (複数) の情報収集と全体像の把握および行われている看護の理解をする ・複数の患者の日々の看護ケアを計画し、優先順位を考えて実践する ・複数の患者に実施した看護ケアを評価し、考察する (SOAP)
学内 5日目	病棟実習まとめ 8:30~17:00 <ul style="list-style-type: none"> ・病棟実習を振り返り達成状況を考察する。 ・4日間の病棟実習での体験内容について、追加学習を行う。 	

* 1. カンファレンス

- ・2日目以降のカンファレンスについては朝、時間の確認をする。
- ・カンファレンスの内容は、翌日の実習がスムーズに行えるように、翌日の行動内容の確認を行う。
- ・カンファレンスの時間は15分程度とする。

* 2. SOAP

- ・SOAPは問題点に対する援助を実施したことについて記入する。
- ・記載時間は30分を超えないようにする。 ・最低限1日2場面 (1人の患者1場面) 指導者に提出する。

* 3. 行動計画・体験シートはホチキスで止めて翌日指導者に提出する。

その他

- ・複数受け持ち実習までに事前情報をもとに、疾患、病態、看護について調べ把握しておく。
- ・病棟実習では、事前学習をもとに受け持ち患者の情報収集を行い、複数受け持ち初日までにデータベースを完成させる。

Ⅲ透析室見学実習

透析室における業務を見学し、社会生活を営みながら外来治療を受けている人とその家族への継続的な看護を学ぶ。

1. 実習時間：8：30～17：00
2. 実習方法：1名ずつ看護師に付いて目的をもって見学する。
学院指定ユニフォームに白エプロン着用。
3. タイムスケジュール
 - 8：30 透析室デイルームに集合 オリエンテーション 行動計画確認
 - 8：40 透析前準備見学
 - 8：50 患者様入室
体重測定、血圧測定、心電図など患者準備見学
透析の実際の見学（穿刺→回路接続→設定確認→透析開始）
透析の機械のしくみ、不均衡症候群、シャント音の確認など説明を受けながら見学する
※患者様の状態等により説明を受けながらの見学ができない場合もある
 - 10：00 回診見学（月曜日以外）
透析終了（返血→止血→体重測定）の見学
透析終了後患者は透析食を食べて帰宅される
 - 11：00頃 患者様とコミュニケーション
 - 13：00 挨拶
午後 学院に帰院後、透析室見学の振り返り、ミニカンファレンスを行い、終了後記録を提出
4. 記録：1日の行動計画、体験シート、追加学習レポート 翌登校時提出
評価表・行動計画（統合）・体験シート・追加学習の順に記名したクリアファイルに入れて提出
5. 必要な学習
基礎看護方法Ⅰ-B透析看護授業ノート・資料の復習
 - ・血液透析を受ける患者の特徴的疾患（解剖生理も含む）
 - ・血液透析について（原理・適応・合併症）
 - ・ブラッドアクセスの管理
 - ・透析中～後の看護
 - ・透析を受ける患者の心理とその援助
 - ・透析を受ける患者が受けられる医療保険制度

IVリハビリ部門見学実習

1. 実習時間：8：30～17：00

2. スケジュール：

午前：行動計画をもとに見学による学びを深めるため学習する。

学院指定ユニフォームと白エプロン着用、マスク、フェースガードを使い感染対策。

12：55 リハビリ室に集合 挨拶（13時には病棟リハに同行するため、5分くらい前にリハ室前に行く）

13：00 リハビリ室や病棟のベッドサイドでリハビリを受ける患者の見学を行う。

リハビリスタッフに同行し、どの様な対象に、どの様なリハビリが行われているか見学する。

リハビリの実際を体験する。

17：00 実習終了

3. 記録：リハビリ見学での実習記録は翌登校時、教員に提出する。

見学実習の記録は、評価表・行動計画（統合）・体験シート・事前学習・追加学習
記名したクリアファイルに入れて提出

4. 必要な学習

リハビリテーションの講義の振り返り、基礎看護技術の移乗・移送など

V手術室見学

目的：手術室業務を知り、手術見学を通して患者の術直前、術中、術直後の看護の実際を学ぶ。

目標：1. 病棟との連携、情報共有による継続・統一した看護の提供を学ぶ

2. 整理整頓、滅菌器材の管理の実際を学ぶ

方法：1. 見学対象患者の情報は、実習前週の金曜日午後に提示する。疾患・手術・麻酔・看護などについて調べ理解しておく。必ず希望した手術の見学ができるとは限らないので、見学日に予定されている手術について、事前に診断名、術式、麻酔、体位に関して「⑤手術見学実習の記録」に記入し学習しておくこと。見学後は学んだことを記録し翌登校時提出する。

2. 可能であれば、患者の術前訪問に同行する。

3. 手術見学以外の時間で、手術室の業務の見学や演習を行う。積極的に取り組み、学んだことを「③体験シート」に記録し、翌登校日に提出する。

4. 事前オリエンテーション

月 日（土）9時30分～11時30分：

月 日（土）9時30分～11時30分：

ユニフォーム着用し 9時00分 学院教室集合。清潔なポロシャツ（学院指定）、マスク、実習靴（靴底をきれいに拭き汚れを落とす）、メモノートと筆記用具を運びやすいバッグに入れて持参し、外靴にて病院へ移動。9時25分までに手術室の説明室前のホールに集合する。ブザーを押し、待機すること。ラテックスアレルギーがある場合は事前に申し出ること。

【手術室実習の流れ】

時間	手術室の流れ	学生の動き
8:40	新館2階 手術室患者家族待合ホールに集合・更衣	手術室 患者家族待合ホールに、往来の邪魔にならないように集合する。指示に従い更衣。 (学院ユニフォーム→清潔なポロシャツ・ズボンへ更衣)
8:40～ 9:00	朝のカンファレンス ・学生挨拶・自己紹介・一日の目標と見学に入る 手術の発表 ・外回り看護師と対面	<ul style="list-style-type: none"> ・本日の手術の役割担当、部屋割り ・手術患者の感染症の有無 ・伝達事項なども情報収集する
9:00～ 10:00	オリエンテーション ・滅菌操作についての説明 ・器械出し準備の見学	<ul style="list-style-type: none"> ・術前準備について、担当看護に同行しながら見学 ・器械出しの準備、器械台の準備などの見学 ・手術室の準備の見学・薬品準備見学 ・手術に必要な書類の準備見学 ・部屋の準備見学（清掃など指示により実施）
10:00～ 10:30	部屋の準備の見学、術前訪問の準備	<ul style="list-style-type: none"> ・器械出し看護師→器械展開 ・外回り看護師→部屋準備 ・フリー→前日の器械の処理、滅菌物の処理、器械展開の補佐等
10:30～	外回り看護師と術前訪問 ・器械出し看護師→翌日の手術の準備 ・外回り看護師→本日の手術の麻薬準備、術前訪問 ・フリー→物品補充、物品請求、衛生材料作り、整理整頓 etc.	<ul style="list-style-type: none"> ・術前訪問の見学（必要書類、訪問内容、患者との話の内容、手術申し込み用紙をどの様に活用されているかなど）
11:30	昼休憩	昼休憩 1時間程度
12:30～	術前の申し送り	
13:00～ 17:00	手術見学	<ul style="list-style-type: none"> ・申し送り見学（申し受け、申し送り） ・麻酔導入の見学 ・清潔操作に影響のない範囲で、外回り看護師と一緒に実施（ガーゼカウント、尿量カウント、器械類のカウントなど見学） ・手術室の清掃を指導者とともに実施
17:00	実習終了 *実習終了までの間で、キリのよいところで実習終了とさせて頂く。実習終了のタイミングは指導者に一任する。学生は手術中に退出する場合など、手術の妨げにならないよう十分する。	<ul style="list-style-type: none"> *17:00頃までに更衣を済ませ帰校し、終了の報告後下校する。

- ・見学する手術についての学習が不十分な場合は、見学ができない場合がある。
 - * 見学当日は、実習要項,手術室看護授業ノート・資料等を持参すること。
 - * 貴重品は実習場へは持っていかない。(紛失した場合自己責任となる。学院も施設側も責任を取らない)
 - * カンファレンスの時間は設けていないため、不明な点はその都度助言をもらいながら行動すること。
 - * スタッフ・医師へ挨拶をすること。
 - * 手術室での実習記録は翌登校時提出。
- 評価表・出席表・行動計画(統合)・体験シート・手術見学実習の記録・追加学習を
記名したクリアファイルに入れて提出すること。

5. 復習することが望まれる学習項目

- 1) 手術を受ける患者の特徴
- 2) 手術室の特徴、手術室のスタッフ
- 3) ガウンテクニック、手術室における手洗い、
- 4) 消毒と滅菌、無菌操作の方法、感染取り扱い
- 5) 輸血の取り扱い
- 6) 手術器械の取り扱い
- 7) 麻酔方法の種類と麻酔薬の薬効・副作用・合併症
(全身麻酔・脊椎(腰椎)麻酔・硬膜外麻酔・伝達麻酔・局所浸潤麻酔)
- 8) 挿管介助の方法
- 9) 術前の看護(特に必要検査項目、術前処置の内容、術前訪問)
- 10) 術中の看護(特に体温調節の必要性と方法)
- 11) 手術室での申し送り

6. 手術見学のための学習(手術見学までに学習する)

- 1) 病態生理
- 2) 手術術式について
- 3) 手術体位のとり方
- 4) 手術の流れ
- 5) 合併症について

VI 統合実習まとめ

1. 統合実習およびすべての臨地実習を振り返り、目的・目標、自己の課題の達成度を考える。達成できなかったところ、なぜ達成できなかったのか、達成するために必要なことは何かを明らかにする。
2. 卒業後専門職者としてどのような看護師になりたいかを考える。

その他

- 1.
2. 統合記録の最終提出について
 - 1) 臨地実習終了後に指定する 登校時提出厳守
 - 2) 提出方法：
 - ①評価表 ②出席表 ③記録用紙の順に各項目にインデックスを付けてファイルに綴じて提出する。

統合実習評価表【病棟実習】(合計 44 点)

出席番号 学生氏名

実習内容	評価視点	配点	学生	教員
①臨床現場で起こるさまざまな状況に対する判断力を養う	・判断に必要な情報は何かを考えることができる	2		
	・事前に必要な情報を収集することができる	2		
	・自らの現在の能力を超えると判断する場合は、適切な人に助言を求めることができる	2		
	・優先順位を判断することができる	2		
	・いくつかの選択肢を考えることができる	2		
	・選択肢の中から、有効なものを選ぶことができる	2		
	・選択肢を選んだ根拠を説明することができる	2		
②患者の状況に応じて、安全に看護を実践する能力を養う	・リスクを予測することができる	2		
	・リスクを回避する方法を考えることができる	2		
	・リスクを回避することができる	2		
③看護チームの一員であることを自覚して、自らの判断・行動に対する責任感を養う	・看護現場で起こっていることを見聞きし、状況要因や文脈を考えることができる	1		
	・他者から受け取ったメッセージを、正しく他者にフィードバックすることができる	1		
	・自己の判断・行動について、タイムリーに報告・連絡・相談をすることができる	1		
	・看護チームのメンバーと円滑なコミュニケーションをとることができる	1		
④チーム医療におけるマネジメントの実際を通して、基礎的なマネジメント能力を養う	・病院・病棟における看護マネジメントの実際を理解することが出来る	1		
	・病院・病棟における看護マネジメントの重要性を考察することができる	1		
	・看護部長・病棟看護師長・チームリーダーの役割を知り、看護管理の実際を理解することができる	1		
	・チーム医療における協働の実際を理解することが出来る	1		
	・看護師に求められる情報管理・安全管理・物品(薬剤)管理・コスト管理について考えることができる	1		
⑤看護実践における自己の課題を明確にするとともに、自己	・これまでの専門領域別実習を振り返り、看護実践能力における自己の課題を明確にすることができる	1		
	・専門領域別実習における自己の課題から、統合実習に期待する目標を具体的に記述することができる	1		

研鑽する能力を養う	・体験シートを活用して、日々の看護実践を自己評価することができる	1			
	・カンファレンスにおいて自己の課題と達成状況をわかりやすくプレゼンテーションすることができる	1			
⑥学生らしい態度で実習に取り組む	・グループメンバーと協力しながら実習に取り組める	1			
	・積極的に実習に臨み、責任を持った行動ができる	1			
	・グループメンバー・スタッフ・指導者の意見に前向きに耳を傾けることができる	1			
	・決められた方法で記録ができる	1			
	・記録・レポート・課題を指示された期日に自ら提出できる	1			
	・相手にふさわしい言葉づかいや挨拶ができる	1			
	・実習生としてふさわしい髪型・化粧・清潔なユニフォームの着用ができる	1			
	・体調を整え、遅刻・欠席なく実習に出席できる	1			
特記事項	遅刻 時数	早退 時数	欠課 時数	自己 評価	学校 評価

統合実習評価表【透析室】（合計 12 点）

出席番号 学生氏名

実習内容	評価視点	配点	学生	教員
①チーム医療におけるマネジメントの実際を通して、基礎的なマネジメント能力を養う	・ チーム医療における協働の実際を理解することができる	2		
	・ 透析室見学を通して他部門の看護について理解し考察することができる	2		
	・ 看護師に求められる情報管理・安全管理・物品（薬剤）管理・コスト管理について考えることができる	2		
	・ 積極的に実習に臨み、責任を持った行動ができる	1		
	・ グループメンバー・スタッフ・指導者の意見に前向きに耳を傾けることができる	1		
	・ 決められた方法で記録ができる	1		
	・ 記録・レポート・課題を指示された期日に自ら提出できる	1		
	・ 実習生としてふさわしい髪型・化粧・清潔なユニフォームの着用ができる	1		
	・ 体調を整え、遅刻・欠席なく実習に出席できる	1		

特記事項	遅刻 時数	早退 時数	欠課 時数	自己 評価	学校 評価

統合実習評価表【リハビリ実習】(合計 12 点)

出席番号 学生氏名

実習内容	評価視点	配点	学生	教員
①チーム医療におけるマネジメントの実際を通して、基礎的なマネジメント能力を養う	・ チーム医療における協働の実際を理解することができる	2		
	・ リハビリ見学を通して他部門の看護について理解し考察することができる	2		
	・ 看護師に求められる情報管理・安全管理・コスト管理について考えることができる	2		
	・ 積極的に実習に臨み、責任を持った行動ができる	1		
	・ グループメンバー・スタッフ・指導者の意見に前向きに耳を傾けることができる	1		
	・ 決められた方法で記録ができる	1		
	・ 記録・レポート・課題を指示された期日に自ら提出できる	1		
	・ 実習生としてふさわしい髪型・化粧・清潔なユニフォームの着用ができる	1		
	・ 体調を整え、遅刻・欠席なく実習に出席できる	1		

特記事項	遅刻 時数	早退 時数	欠課 時数	自己 評価	学校 評価

統合実習評価表【手術室見学実習】（合計 12 点）

出席番号 学生氏名

実習内容	評価視点	配点	学生	教員
①チーム医療におけるマネジメントの実際を通して、基礎的なマネジメント能力を養う	・チーム医療における協働の実際を理解することができる	2		
	・手術室見学を通して他部門の看護について理解し考察することができる	2		
	・看護師に求められる情報管理・安全管理・物品（薬剤）管理・コスト管理について考えることができる	2		
	・積極的に実習に臨み、責任を持った行動ができる	1		
	・グループメンバー・スタッフ・指導者の意見に前向きに耳を傾けることができる	1		
	・決められた方法で記録ができる	1		
	・記録・レポート・課題を指示された期日に自ら提出できる	1		
	・実習生としてふさわしい髪型・化粧・清潔なユニフォームの着用ができる	1		
	・体調を整え、遅刻・欠席なく実習に出席できる	1		

特記事項	遅刻 時数	早退 時数	欠課 時数	自己 評価	学校 評価

統合実習評価表【統合実習のまとめ】(合計 20 点)

出席番号 学生氏名

①看護実践における自己の課題を明確にするとともに、自己研鑽する能力を養う	・統合実習を通して明らかになった自己の課題について、今後の学習計画を立てることができる	5		
	・統合実習の実践を通して看護専門職者としての課題と展望を述べることができる	5		
②学生らしい態度で実習に取り組む	・グループメンバーと協力しながら実習に取り組める	1		
	・積極的に実習に臨み、責任を持った行動ができる	1		
	・他者のことを考えた行動ができる	1		
	・グループメンバー・スタッフ・指導者の意見に前向きに耳を傾けることができる	1		
	・決められた方法で記録ができる	1		
	・記録・レポート・課題を指示された期日に自ら提出できる	1		
	・相手にふさわしい言葉づかいや挨拶ができる	1		
	・実習生としてふさわしい髪型・化粧・清潔なユニフォームの着用ができる	1		
	・体調を整え、遅刻・欠席なく実習に出席できる	1		
	・実習準備を自主的に整えることができる	1		

特記事項	遅刻 時数	早退 時数	欠課 時数	自己 評価	学校 評価

統合実習 総合評価表

出席番号 _____ 学生氏名 _____

	病棟実習	透析室	リハビリ	手術室	まとめ
合計点	44	12	12	12	20
自己評価					
学校評価					

特記事項	遅刻 時数	早退 時数	欠課 時数	自己 評価 合計	学校 評価 合計

評価者 _____ 印
_____ 印